

# 施工歩掛

平成29年改訂

ロッククライミングマシン(RCM-03)

ロッククライミングマシン運転1日当たり単価表

	名 称	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
1	軽油	25.8	リットル	¥130	¥3,354	
2	油脂類	20	%	¥3,354	¥670	軽油 * 20%
3	土木一般世話役	0.2	人工	¥21,300	¥4,260	
4	運転手(特殊)	1	人工	¥19,900	¥19,900	
5	法面工	1	人工	¥20,800	¥20,800	
6	RCM機械損料	1	日	¥69,850	¥69,850	機械等損料表⑬欄使用
7	主ワイヤー等損料	1	日	¥3,850	¥3,850	200H~400H全損
8	諸雑費(5%)	1	式		¥6,134	Σ(1~7) * 5%
	計				¥128,818	
9	(ブレーカ機械損料)	1	日	¥7,330	¥7,330	200kg級
10	諸雑費(5%)	1	式		¥366	(9) * 5%
	計				¥136,514	ブレーカ使用時

※岩掘削時に計上する。

- 注)
- 1 準備工 アンカーの設置、取り付けワイヤー等の準備作業として、現場の延長、既設アンカーの有無等により費用の計上が必要です。
  - 2 法面整形 機械切り取りであるため、法面整形の別途計上が必要です。
  - 3 法勾配 0<法勾配<45の場合は、土質、現場状況により20%~30%程度の割り増しが必要です。
  - 4 施工歩掛 法面が崩壊、転石の危険のある施工現場においては、ラジコン運転とし、それ以外は、搭乗運転施工とします。
  - 5 諸雑費 高所急斜面における作業のため、ツール及びチゼル等の損耗費等、給油等における休止作業の割り増し
  - 6 ラジコン運転 ラジコン運転の施工量は搭乗運転施工量に[0.8]を掛けた施工量とする。

## 運転1時間当たり土工量 Vs

ロッククライミングマシン(RCM-03)

$$Vs = (3,600 * Q * E) / Cm \quad (\text{m}^3/\text{時間})$$

Q: サイクル当たり掘削量 0.09m<sup>3</sup>

Cm: サイクルタイム 28

E: 作業効率

E: 作業効率		床堀			切り崩し		
		良	普	不良	良	普	不良
搭乗運転	レキ混じり土・粘性土	0.587	0.440	0.293	0.868	0.723	0.578
ラジコン運転	レキ混じり土・粘性土	0.469	0.352	0.235	0.694	0.578	0.463

(注) 作業効率

- ①良 : 地山がゆるく、切土作業が最適で連続作業が可能で、しかも作業妨害がない等の条件が揃っている場合。
- ②不良 : 地山が固く、かつ連続作業が困難で作業妨害が多い等の条件が揃っている場合。
- ③普 : 地山が固くとも、切土作業が最適な場合又は地山がゆるんでいても、切土作業が困難な場合等上記の条件が中位と考えられるような場合。

## 大型ブレーカー(200Kg)掘削 1日当たり施工量

(単位: m<sup>3</sup>/日)

	搭乗運転		ラジコン運転	
	床堀	切り崩し	床堀	切り崩し
A: (軟岩 1程度)	19	29	15.2	23.2
B: (軟岩 2程度)	-	-	-	-
C: (中硬岩程度)	-	-	-	-
D: (硬岩 1程度)	-	-	-	-

\* 岩質による施工量は、標準とし、現場岩質により施工数量を検討する事。

\* 当機械で対応できないものに関しては、破砕材併用とし別途計上する。

(破砕材併用の場合は、ロッククライミングマシンによる、削孔作業を適用する。)

## 1m<sup>3</sup>当たりの施工単価

$$1\text{m}^3\text{当たり施工単価} = 1\text{日当たりの運転単価} / (1\text{日の施工量})$$

運転1日当たり法面整形土工量 (m2/日)

ロッククライミングマシン(RCM-03)

		法面整形		
		良	普	不良
		(m2/日)		
搭乗運転 ブレーカ使用時(A)	砂・砂質土	226.8	189.0	151.2
	レキ混じり土・粘性土	174.0	145.0	116.0
	A:(軟岩 1程度)	84.0	70.0	56.0
	B:(軟岩 2程度)	-	-	-
	C:(中硬岩程度)	-	-	-
	D:(硬岩 1程度)	-	-	-
ラジコン運転 ブレーカ使用時(A)	砂・砂質土	181.4	151.2	121.0
	レキ混じり土・粘性土	139.2	116.0	92.8
	A:(軟岩 1程度)	67.2	56.0	44.8
	B:(軟岩 2程度)	-	-	-
	C:(中硬岩程度)	-	-	-
	D:(硬岩 1程度)	-	-	-

\* 岩質による施工量は、標準とし、  
現場岩質により施工数量を検討する事。

ロッククライミングマシンによるコンクリート取壊し

ロッククライミングマシン(RCM-03)

作業能力の算定  $V = \text{運転時間当たり基準作業量(m}^3/\text{h)}$

運転時間当たり基準作業量  $V$

		構造物取壊し 大型ブレーカ200kg級	
		平均30cm未満	平均30cm以上
搭乗運転	無筋構造物	1.16	0.87
	有筋構造物	0.73	0.44
ラジコン運転	無筋構造物	0.93	0.70
	有筋構造物	0.58	0.35

(注)1 この作業量は、標準であり次の諸条件を考慮し、値を決定する。

- ① 作業場所の広狭
- ② 構造物の形状
- ③ 連続作業の可否
- ④ 作業現場での妨害等による作業の難度

2 取壊し作業日当たり運転時間は、5.5時間とする。

1m3当たりの施工単価

$$1\text{m}^3\text{当たり施工単価} = 1\text{時間当たりの運転単価} / 1\text{時間当たりの作業量}$$